

ナルトサワギク

分類: 合弁花類、キク科、キオン属(サワギク属)

学名: *Senecio madagascariensis*

英名: Fireweed

和名: ナルトサワギク

別名・流通名: コウベギク

原産地と分布: マダガスカル原産、アフリカ、南アメリカ、オーストラリアなどにも分布する。

未判定外来生物: なし。

種類名証明書添付生物: キオン属(サワギク属)全種(約1500種)

形態的特徴:

花: 開花期はほぼ周年。枝分かれした茎の頂部に直径2-2.5cmの鮮黄色の頭状花を上向きに多数つける。舌状花は通常13枚で長さ約1cm。筒状花は舌状花と同じ色で、花筒部より短い冠毛がある。

茎: 地際は横臥し、多数分枝して大きな株を作り、直立して、高さ30-70cmになる。無毛。

葉: 先の尖った線状披針形～披針形で、基部はやや茎を抱いて互生する。縁に不揃いの鋸歯があり、しばしば羽状に中～深裂する。無毛。



特記事項: 海辺の埋立地、空地、路傍、河川などに生育する。海外では牧草地で見られる。日当たりの良い場所での生育が良好である。開花は周年で、生長段階の早い時期でも開花結実する。アルカロイドを含むため、草食動物に対して有毒である。キオン属(サワギク属)は、日本に約十種が自生する。本種以外にマツバサワギク、ヤブボロギク(ヤブコウリンギク)、ハナノボロギク、ネバリノボロギク、ノボロギクなどが野生化している。キオン属(サワギク属)には、観賞用として一・二年草扱いとして鉢花や花壇材料に使われるものと、多肉植物として扱われるものがある。